

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：34407

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2023

課題番号：17K13924

研究課題名（和文）嗅覚刺激による想起経験が高齢者の認知機能および精神的健康に及ぼす影響に関する研究

研究課題名（英文）Examining the Impact of Olfactory Memory Recall on Cognitive Function and Mental Health in Older Adults

研究代表者

山本 晃輔 (Yamamoto, Kohsuke)

大阪産業大学・国際学部・准教授

研究者番号：60554079

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：超高齢社会への移行から、高齢者における認知機能および精神的健康の低下が社会問題となっている。このような背景のなか、本研究では、高齢者を対象として、嗅覚刺激による記憶の想起が認知機能や精神的健康とどのように関連するのかを検討した。その結果、高齢者は若年者よりも嗅覚同定能力などの一部の認知機能に低下はみられるものの、想起される記憶の特性については加齢の効果は明確に生じにくいことが明らかになった。さらに高齢者は若年者よりも嗅覚刺激によってポジティブな記憶を想起しやすく、それが主観的幸福感の促進にもつながる可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高齢者を対象とした嗅覚や記憶研究はこれまでも行われてきたものの、それらと高齢者の認知機能や精神的健康との関連を研究した研究はほとんど行われてこなかった。本研究では、嗅覚刺激によって想起される記憶特性と、嗅覚同定能力等の認知機能や、主観的幸福感との関連性が示唆されたことから、当該分野における一定の学術的意義はあるものと考えられる。

また、本研究から、こうした記憶の想起が精神的健康を高める可能性が示唆された点は大きい。今回の基礎知見にもとづき、今後、医療、福祉領域において高齢者を対象とした嗅覚刺激による回想法プログラムの開発、実装が期待される。

研究成果の概要（英文）：In the transition to a super-aging society, the decline in cognitive function and mental health among older adults has emerged as a significant social concern. This study investigates how memory recall triggered by olfactory stimuli relates to cognitive function and mental health in older adults. The results indicate that, although older adults exhibit reduced cognitive functions such as olfactory identification ability compared to younger individuals, the characteristics of recalled memories are not significantly affected by aging. Furthermore, older adults demonstrate a greater propensity to recall positive memories through olfactory stimuli than younger individuals, potentially enhancing subjective well-being.

研究分野：応用認知心理学

キーワード：嗅覚 自伝的記憶 加齢 高齢者 精神的健康 認知機能

## 1. 研究開始当初の背景

超高齢社会の移行に伴い、2030年には約3人に1人が高齢者となり、認知症患者は約700万人以上になると言われている。このような背景のなか、高齢者を対象とした多くの心理学研究が行われ、加齢による認知機能の低下や維持に関するメカニズムの解明、さらには、高齢者のQOLやウェルビーイングの持続性、向上に関する応用的知見が多数見出されている。

加齢によって、基本的にはあらゆる認知機能が低下するといわれており、嗅覚も例外ではない。ただし、従来の研究から考察すると、嗅覚能力が低下したとしても、嗅覚刺激によって記憶を想起する能力は維持される可能性がある。これまでも嗅覚刺激によって想起された自伝的記憶は、言語や視覚刺激、聴覚刺激などの手がかりによって想起された記憶よりも情動的で、追体験を伴う感覚が高いこと、また鮮明であり、古いこと等が報告されている。嗅覚刺激が記憶を呼び覚ます強力な手がかりであり、その能力が加齢の影響を受けにくいとすれば、その想起経験を通して高齢者の認知機能が改善される可能性が高く、さらには精神的健康にも波及効果があることが期待される。

## 2. 研究の目的

本研究では、高齢者の認知機能・精神的健康を改善する新たなプログラムの開発に資する基礎研究を行うべく、高齢者を対象として、嗅覚刺激による記憶の想起経験と、高齢者の認知機能(嗅覚同定能力、嗅覚イメージ能力)および精神的健康(主観的幸福感)との関連性を実証的に検討することを目的とする。

## 3. 研究の方法

本研究では、従来の当該領域の研究に則り、実験的手法およびオンライン日誌法を利用する。実験的手法では、日常的な匂い(e.g., チョコレート)に関する精油、あるいは実物を砕いてスクイズボトル等に入れ、ポンプ式に容器を押すことで匂いを提示し、参加者には、その匂いと関連した過去の出来事の想起を求め、想起できた場合には内容等を記述させたうえで、その記憶の鮮明さや情動性等を評定値によって測定させる。オンライン日誌法では、日常生活のなかで嗅覚刺激との遭遇を契機として、無意図的に自伝的記憶が想起した場合に、その記憶の内容や特徴をスマートフォン等を通して記録させる。また、想起された記憶の特性に関しては、嗅覚刺激による独自の特性を収集するために、新たな心理尺度を開発することとする。認知能力および精神的健康指標の測定法については、以下の検査、尺度等を用いる。

- 1) MMSE-J (Mini Mental State Examination-Japanese) : 精神状態短時間検査であり、主に高齢者における認知機能の測定および認知障害や(軽度)認知症の予測にも広く使用される。
- 2) OE (Open Essence)嗅覚同定能力測定カードキット : 日本人における親しみのある匂いをマイクロカプセル化し、カードに印刷したもので嗅覚の同定能力を測定することができる。
- 3) VOIQ (Vividness Odor Imagery Questionnaire) : 嗅覚イメージに関する個人の認知能力を測定する尺度。英語版しかないため、日本語版を作成する。
- 4) 主観的幸福感尺度 : 個人における主観的な幸福感 (Subjective Well-Being) を測定することができる尺度である。

## 4. 研究成果

本研究の主要な成果は、下記の3点に集約される。以下では、それぞれについて概要を示す。

(1) 高齢者における嗅覚刺激による記憶想起と嗅覚イメージ能力、嗅覚同定能力、主観的幸福感との関係

嗅覚に関する認知機能として、本研究ではイメージ能力と同定能力に注目する。目の前にはいない人やないものの姿・形を心の中に思い浮かべる心的過程を心的イメージという。心的イメージは我々の意識経験の基本要素であり、架空の出来事や過去に経験された出来事を再体験する際には極めて重要な役割を果たしている。個人の嗅覚イメージ能力を測定する尺度として、英語版 VOIQ が開発されているが、いまだ日本語版は作成されていない。そこで本研究では、まず VOIQ 日本語版を作成し、その信頼性および妥当性を検証した(山本他, 2017)。その結果、本尺度には一定程度の信頼性および妥当性が確認された。次の研究として、大学生および高齢者を対象として、VOIQ 日本語版と主観的幸福感尺度を実施した(山本, 2019)。その結果、高齢者が若年者よりも嗅覚イメージ能力および主観的幸福感が高いことが示された。また、高齢者を対象に、VOIQ と MMSE、OE を同時に測定した結果、VOIQ と MMSE、OE と MMSE には有意な相関関係は確認されなかったが、VOIQ と OE には有意な相関関係が確認され、嗅覚イメージ能力が高いほど嗅覚同定能力が高くなる可能性が示唆された(山本他, 2021)。

さらに、高齢者の嗅覚同定能力の個人差と、嗅覚刺激による自伝的記憶の特性との関連を検討した(Yamamoto & Kobayakawa, 2022)。自伝的記憶が言語に依存して貯蔵されていることを考えると、同定能力が低下していれば、言語的処理が困難になるため、自伝的記憶の想起は低下する

ことが予測される。実験では若年者、高齢者を嗅覚同定能力検査である OE に基づいて嗅覚同定能力の高い群と低い群に分けたあと、嗅覚刺激による自伝的記憶の想起を求め、その記憶について鮮明度等の評定を求めた。

実験の結果(図1)、若年者では嗅覚同定能力高群が低群よりも鮮明な記憶を想起したが、高齢者ではその差が確認されなかった。また、嗅覚同定能力低群では若年者が高齢者よりも鮮明な記憶を想起したが、高群ではその差が確認されなかった。若年者では、同定による命名が可能な場合には検索時に言語情報が使用可能になるため、検索手がかりが豊富になり、その結果、自伝的記憶の想起が促進されると考えられる。そのため、同定能力の個人差によって想起される記憶の特性に影響が生じる。一方、高齢者は嗅覚能力の加齢による減退に関する自覚が少なく、実際の同定能力と自覚との間にずれがみられる。それゆえ、高齢者の嗅覚同定能力低群では、間違えた命名を行ったとしてもその命名を正しいと思いつき、検索時にも使用した可能性が考えられる。その結果、嗅覚同定能力低群であっても高群と同程度に鮮明な記憶を想起可能であったと解釈される。以上のように、若年者と高齢者において嗅覚同定能力の個人差による記憶想起への影響が異なる可能性が示唆された。

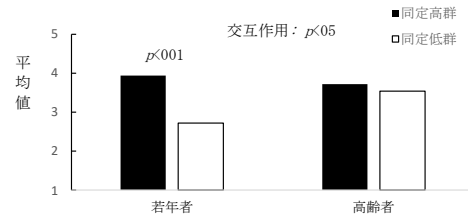


図1 各群における記憶の鮮明度

## (2) 嗅覚刺激によるポジティブ効果の検証

高齢者の well-being や Quality of Life を高める要因についての研究が進められるなかで、現在注目を集めている現象の1つは、加齢性ポジティブ効果である。加齢性ポジティブ効果(age-related positivity effect)とは、高齢者では若年者と比較してポジティブな内容の記憶が多く想起される現象である。加齢に伴って、感情調節のコントロールが向上することや前頭葉や扁桃体に支えられる認知機能の低下から、ネガティブ感情が生じにくくなること等がその理由として考えられている。

本研究では、嗅覚刺激でも加齢性ポジティブ効果が確認されるかどうかを検証するために、まずは嗅覚刺激によって想起される記憶の諸特性を測定する心理尺度の開発を行った(山本・杉山, 2017)。その結果、「情動性」、「事後解釈」、「鮮明度」、「時間情報」、「未来の行為」、「感覚知覚情報」、「ノスタルジー」の7因子から構成される OEAMQ(Odor Evoked Autobiographical Questionnaire)が開発され、一定程度の信頼性および妥当性が確認された。次に、OEAMQ を用いて、嗅覚刺激による加齢性ポジティブ効果について検討を行うため、石鹸などの日常的な匂いを若年者あるいは、高齢者に提示し、自伝的記憶の想起を求め、その感情特性や鮮明性などを評定させた(Yamamoto & Sugiyama, 2023)。その結果、高齢者は若年者よりもポジティブな記憶を想起し、嗅覚刺激による自伝的記憶の想起においても加齢性ポジティブ効果が確認された。それだけでなく、高齢者は若年者よりも全体的にさまざまな記憶特性が高いことが明らかになった(図2)。この原因を明らかにするために、手がかりとなった嗅覚刺激の感情特性と記憶特性との相関分析を行った結果、中程度の有意な相関係数が確認された。このことから、嗅覚刺激から喚起された情動が加齢性ポジティブ効果や想起の促進に影響している可能性が考えられる。

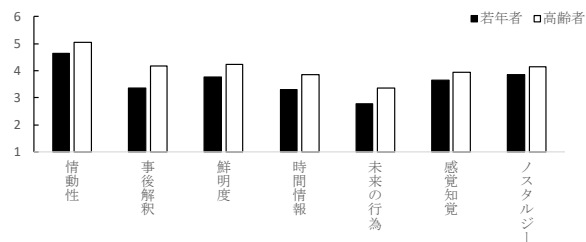


図2 若年者と高齢者における自伝的記憶特性質問紙因子ごとの平均値の比較

## (3) 嗅覚刺激によって想起される記憶の機能と主観的幸福感

(2)で嗅覚刺激によってポジティブ効果が確認されたことから、高齢者においては、嗅覚刺激によってポジティブな感情が喚起され、そのことが主観的幸福感にもつながる可能性が予測される。そこで本研究では、若年者および高齢者を対象としてオンライン日誌法を用いて、日常生活のなかで嗅覚刺激によって想起される自伝的記憶を記録させるとともに、主観的幸福感尺度を実施した(Yamamoto, 2023)。その結果、この研究においても、加齢性ポジティブ効果が確認され、さらには若年者、高齢者ともに、嗅覚刺激によって詳細な自伝的記憶を想起するほど、主観的幸福感が高まる可能性が示唆された。

また、ここまではポジティブな感情喚起に注目していたが、嗅覚刺激によって想起される記憶には、その他にもさまざまな機能がある可能性が考えられる。そこで次の研究として、高齢者のための嗅覚刺激によって想起される自伝的記憶の機能を評価する尺度である FAMOS (Function of Autobiographical Memory cued by Odor Scale)の開発を試みた(Yamamoto et al., 2022)。先行研究から94項目を収集し、嗅覚刺激によって自伝的記憶が想起された際に、どのような心理的変化が生じたかについて高齢者に評定を求めた。因子分析を行った結果、「ポジティブ感情



## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 19件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 Kohsuke Yamamoto, Kengo Yokomitsu, Takefumi Kobayashi	4. 巻 13
2. 論文標題 Development of the function of autobiographical memories evoked by odor scale for older Japanese people	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2022.945002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Kohsuke Yamamoto, Tatsu Kobayakawa	4. 巻 53
2. 論文標題 Influences of individual differences in odor identification ability and aging on autobiographical memory cued by odor	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Japan Association on Odor Environment	6. 最初と最後の頁 299-302
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2171/jao.53.299	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Kohsuke Yamamoto, Haruko Sugiyama	4. 巻 13
2. 論文標題 Influences of age-related positivity effect on characteristics of odor-evoked autobiographical memories in older Japanese adults	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2022.1027519	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 山本晃輔・坂本浩也	4. 巻 93
2. 論文標題 マルセル・ブルーストから学ぶ「ブルースト現象」 - 認知心理学は「ブルースト現象」をどこまで解明できたのか? -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Aroma research	6. 最初と最後の頁 56-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kohsuke Yamamoto, Tomoko Matsubasa, Saho Ayabe-Kanamura	4. 巻 54
2. 論文標題 A Study of Gender and Generational Differences on “Odor” in Daily Life	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Japan Association on Odor Environment	6. 最初と最後の頁 145-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2171/jao.54.145	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本晃輔	4. 巻 55
2. 論文標題 嗅覚刺激による自伝的記憶と主観的幸福感における性差・世代差	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本味と匂学会第55回大会Proceeding集	6. 最初と最後の頁 41-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kohsuke Yamamoto	4. 巻 21
2. 論文標題 A Content Analysis of Odor-evoked Involuntary Autobiographical Memory and Subjective Well-being in Young and Older People: Using Text Mining with Correspondence Analysis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Osaka Sangyo University Journal of Human Environmental Studies	6. 最初と最後の頁 61-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naomi Gotow, Kohsuke Yamamoto, Takefumi Kobayashi, Tatsu Kobayakawa	4. 巻 14
2. 論文標題 Screening for Age-Related Olfactory Decline Using a Card-Type Odor Identification Test Designed for Use with Japanese People	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Chemosensory Perception	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12078-020-09279-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本晃輔・猪股健太郎・綾部早穂	4. 巻 92
2. 論文標題 嗅覚イメージ鮮明度質問紙(V01Q)日本語版を用いた近年の研究展望	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Aroma Research	6. 最初と最後の頁 123-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本晃輔	4. 巻 289
2. 論文標題 嗅覚刺激によって想起される自伝的記憶に関する心理学的研究 - 認知症高齢者への応用展開を目指して -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 香料	6. 最初と最後の頁 29-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本晃輔・白井真菜美・小林剛史・小早川達	4. 巻 20
2. 論文標題 高齢者における認知機能と嗅覚同定能力・嗅覚イメージ能力との関連性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大阪産業大学人間環境論集	6. 最初と最後の頁 129-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本晃輔	4. 巻 36
2. 論文標題 若年者と高齢者における嗅覚イメージ能力と主観的幸福感	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪産業大学論集 人文・社会科学編	6. 最初と最後の頁 43-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本晃輔・横光健吾・平井浩人	4. 巻 28
2. 論文標題 嗜好品による自伝的記憶の機能尺度の開発	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 パーソナリティ研究	6. 最初と最後の頁 67-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2132/personality.28.1.9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本晃輔・綾部早穂・猪股健太郎	4. 巻 53
2. 論文標題 アロマの専門家と一般大学生における嗅覚イメージ能力の比較	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本味と匂学会	6. 最初と最後の頁 95-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本晃輔	4. 巻 4
2. 論文標題 高齢者の精神的健康と嗅覚刺激によって想起される自伝的記憶との関連性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アグリバイオ	6. 最初と最後の頁 34-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本晃輔・小林剛史・小早川達	4. 巻 81
2. 論文標題 日本におけるなつかしい匂いとは - ノスタルジアを喚起させる匂いに関する調査的研究 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Aroma Research	6. 最初と最後の頁 44-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 山本晃輔	4. 巻 75
2. 論文標題 嗅覚と記憶に関する心のメカニズムの解明を目指して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Aroma Research	6. 最初と最後の頁 38-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本晃輔・横光健吾・平井浩人	4. 巻 15
2. 論文標題 嗜好品摂取時に無意図的に想起される自伝的記憶の特性と機能	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 認知心理学研究	6. 最初と最後の頁 39-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5265/jcogpsy.15.39	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本晃輔・杉山東子	4. 巻 88
2. 論文標題 匂い手がかりによって喚起される自伝的記憶特性質問紙(OEAMQ)の開発	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 心理学研究	6. 最初と最後の頁 478-487
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4992/jjpsy.88.16229	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamamoto Kohsuke, Inomata Kentaro, Susami Kenji, Ayabe-Kanamura Saho	4. 巻 27
2. 論文標題 Development of the Japanese Version of the Vividness of Odor Imagery Questionnaire	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Japanese Journal of Personality	6. 最初と最後の頁 87-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2132/personality.27.1.10	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計46件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 山本晃輔・横光健吾・小林剛史
2. 発表標題 嗅覚刺激による自伝的記憶の機能尺度の開発（1）
3. 学会等名 日本味と匂学会第56回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本晃輔
2. 発表標題 におい・香りの心理・生理的効果に関する研究
3. 学会等名 第35回におい・かおり環境学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本 晃輔・清水 寛之・槇 洋一・瀧川 真也・楠見 孝・上原 泉・北神 慎司
2. 発表標題 日常記憶研究の新展開
3. 学会等名 日本心理学会第86回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本晃輔・小俣貴宣・小早川達
2. 発表標題 嗅覚，視覚，クロスモーダル刺激による自伝的記憶に言語が及ぼす影響
3. 学会等名 日本心理学会第86回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 白井 真菜美・小林 剛史・國枝 里見・山本 晃輔・Cohen Nathan・久保田 礼子
2. 発表標題 懐かしいかおりを伴うアート作品の心理的效果に関する検討
3. 学会等名 日本心理学会第86回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本晃輔・榎 洋一・瀧川真也・清水寛之
2. 発表標題 自伝的記憶特性質問紙(AMCQ)日本語版開発の試み(4)
3. 学会等名 日本認知心理学会第20回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本晃輔・横光健吾・小林剛史
2. 発表標題 嗅覚刺激による自伝的記憶の機能尺度の開発(2) - 世代差による妥当性の検討 -
3. 学会等名 日本パーソナリティ心理学会第31回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kohsuke Yamamoto
2. 発表標題 Influences of aging on odor-evoked involuntary autobiographical memory and the subjective well-being
3. 学会等名 The 32nd International Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本 晃輔 ・ 横 洋一 ・ 瀧川 真也 ・ 杉森 絵里子 ・ 佐々木 真吾 ・ 小林 剛史 ・ 清水 寛之 ・ 伊東 裕司
2. 発表標題 「思い出」を科学する - 自伝的記憶研究の現在と未来5 -
3. 学会等名 日本心理学会第85回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本 晃輔
2. 発表標題 嗅覚刺激による自伝的記憶と主観的幸福感における性差・世代差
3. 学会等名 日本味と匂学会第55回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本晃輔
2. 発表標題 認知心理学におけるブルースト受容 - ブルースト現象について -
3. 学会等名 日本ブルースト研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本晃輔・松葉佐智子・綾部早穂
2. 発表標題 日常生活における「におい」に関する性差・世代差の検討
3. 学会等名 日本認知心理学会第19回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本晃輔・槇洋一・瀧川真也・清水寛之
2. 発表標題 自伝的記憶特性質問紙 (AMCQ) 日本語版開発の試み (3)
3. 学会等名 日本発達心理学会第33回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本晃輔・小林剛史・小早川達
2. 発表標題 高齢者における認知機能と嗅覚同定能力・イメージ能力との関連性
3. 学会等名 日本心理学会第84回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本晃輔・槇洋一・瀧川真也
2. 発表標題 「思い出を科学する」 - 自伝的記憶研究の現在と未来4 -
3. 学会等名 日本心理学会第84回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kohsuke Yamamoto
2. 発表標題 Psychological research of the relationship between olfactory and autobiographical memory
3. 学会等名 The 54th Annual Meeting of the Japanese Association for the study of Taste and Smell
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本晃輔・楨洋一・瀧川真也・清水寛之
2. 発表標題 自伝的記憶特性質問紙(AMCQ) 日本語版開発の試み(1)
3. 学会等名 日本認知心理学会第18回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本晃輔・楨洋一・瀧川真也・清水寛之
2. 発表標題 自伝的記憶特性質問紙(AMCQ) 日本語版開発の試み(2) - 自己定義記憶による想起課題を用いた検討 -
3. 学会等名 日本発達心理学会第32回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本晃輔
2. 発表標題 嗅覚の手がかりによる無意図的想起におけるポジティブティ効果
3. 学会等名 日本認知心理学会第17回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本晃輔・猪股健太郎・綾部早穂
2. 発表標題 日本人版嗅覚イメージ鮮明度質問紙(J-V01Q)の開発(1)
3. 学会等名 日本パーソナリティ心理学会第28回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本晃輔・小林剛史・小早川達
2. 発表標題 高齢者における嗅覚同定能力，嗅覚イメージ能力，主観的幸福感，自伝的記憶想起の関係性
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本晃輔
2. 発表標題 「思い出」を科学する - 自伝的記憶研究の現在と未来3 -
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本晃輔・綾部早穂・猪股健太郎
2. 発表標題 A comparison of olfactory image ability between aroma-experts and college students
3. 学会等名 日本味と匂学会第53回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本晃輔・曾我千亜紀・Julien Menant
2. 発表標題 嗅覚と記憶に関する心理学的研究の現在と未来
3. 学会等名 第51回感性研究フォーラム講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本晃輔・横光健吾
2. 発表標題 嗜好品摂取時に想起される自伝的記憶の機能に関する尺度の開発
3. 学会等名 日本パーソナリティ心理学会第27回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本晃輔
2. 発表標題 嗅覚の手がかりによる無意図想起の特性に年齢が及ぼす影響 - OEAMQを用いた検討 -
3. 学会等名 日本認知心理学会第16回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本晃輔
2. 発表標題 ノスタルジー感情を喚起させる食品に関する世代差
3. 学会等名 日本教育心理学会第60回総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本晃輔
2. 発表標題 自伝的記憶と成長との関係を考える - 生涯教育の様々なステージで -
3. 学会等名 日本教育心理学会第60回総会大会企画シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 山本晃輔・小早川達
2. 発表標題 嗅覚同定能力と嗅覚刺激による自伝的記憶における加齢の影響
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本晃輔・槇洋一・瀧川真也
2. 発表標題 「思い出」を科学する - 自伝的記憶研究の現在と未来2 -
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会公募シンポジウム企画
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本晃輔・小林剛史・小早川達
2. 発表標題 ノスタルジー感情を喚起させる匂いに関する心理学的調査
3. 学会等名 日本発達心理学会第30回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本晃輔
2. 発表標題 食事場面で無意図的想起における性差・世代差
3. 学会等名 日本発達心理学会第29回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本晃輔
2. 発表標題 味覚刺激によって無意図的に想起される自伝的記憶の特性
3. 学会等名 関西心理学会第129回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本晃輔
2. 発表標題 嗜好品摂取によって得られる心理学的効果に及ぼす記憶の役割を探索(公募シンポジウム話題提供)
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本晃輔
2. 発表標題 「思い出」を科学する - 自伝的記憶研究の現在と未来 - (公募シンポジウム話題提供)
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本晃輔・横光健吾・平井浩人
2. 発表標題 嗜好品摂取時に無意図的に想起される自伝的記憶の特性
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本晃輔・猪股健太郎・須佐見憲史・綾部早穂
2. 発表標題 日本人版嗅覚イメージ鮮明度質問紙の開発
3. 学会等名 日本認知心理学会第15回大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 アン・M・クリアリー、ベネット・L・シュワルツ、清水 寛之、山本 晃輔、槇 洋一、瀧川 真也	4. 発行年 2022年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 560
3. 書名 記憶現象の心理学	

1. 著者名 山本晃輔	4. 発行年 2018年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 253
3. 書名 味嗅覚の科学：人の受容体遺伝子から製品設計まで 1-1-3分担執筆	

1. 著者名 山本晃輔・杉山東子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 サイエンス&テクノロジー	5. 総ページ数 285
3. 書名 ユーザの感性と製品・サービスをむすぶ真意を聞き出すアンケート設計と開発・評価事例 第3節(5)分担執筆	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------